氏名（本籍）	Amarsanaa Gan-Yadam（モンゴル国）
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	博甲第 6714 号
学位授与年月	平成２５年１０月３１日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	Factors that influence health service utilization among the local residents of Ulaanbaatar city, Mongolia. （モンゴル国ウランバートル地域住民のヘルスサービス利用に関連する要因）

主　査	筑波大学教授	博士（医学）	大久保　一郎
副　査	筑波大学准教授	博士（医学）	笹原　信一朗
副　査	筑波大学講師	博士（医学）	前野　貴美
副　査	筑波大学助教	博士（医学）	菅野　幸子

論文の内容の要旨

（目的）

健康状態やヘルスサービス利用は、社会的、経済的、文化的、人口学的、あるいは地理的な状況により相違する。数多くの研究で、ヘルスサービス利用に影響する要因を特定するための検討が行われており、社会経済状態や、文化的信念、ヘルスサービス満足や健康状態、ヘルスサービスの問題が重要な影響要因であることが明らかにされている。

モンゴル国では社会体制の変化にともない、1990 年代前半から社会経済状態の再構築が始まり、プライマリヘルスケアや疾病予防が取組まれているものの、医療格差が課題となっている。高齢者や幼い子どもをもつ母親などの弱者は、自己負担が免除されているものの、患者の多くは医療的ケアを受けていない現状がある。さらに、モンゴル国で適切なヘルスサービスが提供されているかどうか、ヘルスサービスに影響する要因に関する調査報告も乏しい状況である。

そこで本研究では、モンゴル国の首都であるウランバートルの地域住民におけるヘルスサービス利用の特徴と関連する要因を明らかにすることを目的とする。

（対象と方法）

本研究は、質的研究および量的研究により構成されている。

対象は、国民の 46%が居住していることからモンゴル国ウランバートル地域住民とし、ダウンタウンおよびウランバートル郊外住民を対象とした。量的研究では、多段抽出法により、ウランバートル地域住民 500 人を対象とした自記式質問紙調査を実施した。内容は、アンデルセンの「behavioral model of

health service utilization」に基づき、健康問題に対する過去1年以内の医師やヘルス専門職への受診や相談の回数をたずねた。分析は、カイ二乗検定、スピアマンの順位相関分析および多重ロジスティック回帰分析により、ヘルスサービス利用の関連要因を検討した。

質的研究では、フォーカス･グループインタビュー法を用いたインタビュー調査を 4 グループ（家族支援実践者 11 名、地域住民 15 名）に対して実施した。地域住民参加者は無作為に選択され、家族支援実践者は、地域で働く実践家が選ばれた。インタビュー実施時間は各回 90 分とした。

本研究は量的研究を主とし、質的研究は、地域住民と実践家のヘルスサービス利用に関する認識や態度について、より深く内面的な情報を得るために実施した。研究結果の妥当性を高めるために、量的質的なトライアンギュレーション研究の手法を用いた。

（結果）

調査の結果、対象の 44.1%が過去 1 年以内に、健康チェックなどのために医療施設を訪れた経験があると回答した。ヘルスサービス利用の満足は、諸外国に比較して低い傾向を示した。また、ヘルスサービス利用に関連する要因として、「結婚している」、「自宅を所有している」、「個人の収入が高い」、「ヘルスサービス利用に満足している」、「市販薬の使用無」、「健康な生活習慣」、「健康への意識が高い」、「喫煙しない」などの健康行動が有意に関連していた。

質的インタビュー調査の結果では、母親は家庭内役割を果たすためにヘルスサービスを利用する傾向がある、低収入の世帯において一次医療が一般的である一方、公的書類を持たず、無保険であるために逆に受診できない場合がある。国内の医療者の技術や治療効果、サービスへの不信や不満足から外国での治療を望む場合など、住民を取り巻く状況の違いが抽出された。さらに、個人の健康増進活動や、家族および友人などインフォーマルなネットワーク、専門職に対する信頼の重要性が抽出された。

（考察）

本研究は、量的な質問紙調査と質的なインタビュー調査を組み合わせたトライアンギュレーション研究により、モンゴル国ウランバートル地域住民のヘルスサービス利用の実態と、関連要因に関する知見を得た。

質問紙調査の結果、ウランバートル地域住民のヘルスサービス利用やヘルスサービスへの満足の実態は、状況を同じくする他国の報告値と比較して低い傾向が示された。さらに、ヘルスサービス利用に関連する要因として、量的研究から、婚姻状況や自宅所有、個人の収入、ヘルスサービスへの満足、個人の健康行動の重要性が示唆された。質的研究では、量的研究の結果と類似する結果、さらに詳細な実態が示唆され、地域住民の医療者およびヘルスサービスへの信頼の重要性が示された。

審査の結果の要旨

（批評）

本研究はモンゴル国の地域住民におけるヘルスサービス利用の特徴と関連する要因を明らかにすることを目的としたものである。方法としては量的手法と質的手法を組み合わせ、多段抽出法によるウランバートル地域住民 500 人を対象とした自記式質問紙調査と、家族支援実践者 11 名、地域住民 15 名を対象としたフォーカス･グループインタビュー調査を実施した。その結果、婚姻状況、個人の収入、ヘルスサービスへの満足、個人の健康行動等の重要性が示唆された。

モンゴル国の実態を解析した研究は乏しく、結果の比較や考察において多くの困難が予想される

中で本研究を試みたのは、挑戦的であり、また革新的なものであった。結果は首都の住民のみを対象としたため、それを一般化するに注意を要するが、今後のモンゴル国の政策に反映できる種々の提言を行っている。本研究は学術的な視点のみならず、特に行政的に価値あるものとして評価できる。

平成 25 年 9 月 4 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。